

第1学年国語科学習指導案

指導者 観音寺市立観音寺中学校 山崎 大

1 単元名

『語り手』の存在を意識して、もう一つの物語を見つけよう

～『少年の日の思い出』『ごんぎつね』～

(新しい国語1 東京書籍) (新編新しい国語四下 東京書籍)

2 単元について

- (1) 「少年の日の思い出(ヘルマン・ヘッセ)」と「ごんぎつね(新見南吉)」は、それぞれ語り手を意識して読むことで、意味の深まりを感じることができる題材である。「少年の日の思い出」において、「僕」の少年時代の回想場面を語っているのは大人になった「客」である。「少年時代の僕＝大人になった客」という構成に目を向けることで、回想場面を語っている客の心情を読みとることができる。また、「ごんぎつね」においても最初の1文に着目することで、物語全体が「兵十」によって語られた内容であり、それが村の人の中で伝承され、「茂平」や「わたし」に伝わってきたという意味をもっていることが分かる。「わたしが茂平から聞いた」という展開を意識することで、「ごんぎつね」という物語を語っている兵十の心情を読みとることができる。今まで気づかなかった登場人物の心情に気づけたとき、生徒たちは語り手の存在に意味を見だし、更には語り手を設定している構成や展開の効果にも気づくことができる。

生徒にとって「ごんぎつね」は小学校で既に学習しており難解な語句も用いられていないため、場面設定や人物像の理解が容易である。故に「語り手」の見方に焦点化して学習を進めやすい。本単元では「少年の日の思い出」「ごんぎつね」の順で教材を扱うことによって、中学校で習得した新たな見方を生徒自身で活用しやすくなるように設定した。

生徒は「語り手」に着目しながら作品を読み進めることで、場面ごとの表層的な心情描写の読み取りを超え、構成・展開による効果に迫ることができる。学習指導要領における〔思考・判断・表現〕における「C 読むこと」の指導事項「エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。」を指導するに適した単元である。

- (2) 生徒は1学期に「飛べかもめ」や「さんちき」を既習しており、「描写」や「設定」などに着目しながら人物像を読み取ることができている。しかし一方で、「語り手」の存在に対しての意識は低く、叙述に語り手の意思が隠れていることに気づけずに表層的な読みにとどまってしまう傾向もある。そこで「語り手」を意識して根拠を探る過程を設定することで、生徒は今まで以上に登場人物の心情を深く理解し、語り手が組み込まれている構成や展開の効果を感じることができるであろう。

また、生徒はこれまでも、中学校の教科書を用いて習得した見方・考え方について、小学校の教科書教材を用いて活用させてきた。その際のアンケート(自由記述

による感想)で約80%の生徒が「小学校の時よりも深く読めた(同意含む)」と記述した。生徒にとって、中学校教材で習得した見方・考え方を小学校教材で活用しながら読むことは、「小学生のときの自らの読み」と「中学生になったの自らの読み」を比較する機会となっている。今回も、習得した「語り手」を意識した見方が自らの読みを深める見方であることを実感させる機会になると予想される。一方、「作者」「語り手」「視点人物」「登場人物」などを混同してしまうつまずきも予想され、そこへの手立ても必要である。

- (3) どの視点から、誰が語っているかについて整理させるため、「少年の日の思い出」を用いて次のような指導を行う。まず、言語活動にリライトを取り入れることにより、視点を変換しながら物語を再構築できるようにする。「僕」が謝罪する場面を「エーミール」の視点でリライトすることにより、「僕」の身勝手さを把握できるようにする。また、「語り手」の存在を意識させるために、「語り手シート」を活用する。「語り手は誰か」「聞き手は誰か」「何を語ったのか」「どんな思いで語ったのか」をシート内の項目にまとめていく。

それらの見方を活用させる「ごんぎつね」の学習では、新美南吉による草稿と鈴木三重吉による定稿を比較しながら「兵十の思いをより表しているのはどちらか」と吟味していく。その際、語られた「内容」の違いとそこから見える語り手の「思い」の違いをそれぞれ語り手シートにまとめていくことにより、「語り手」の存在を意識しながら根拠を探せるようにする。

生徒が単元の振り返りを行う際にはストーリーマップを使用する。「①単元を貫く課題」「②着目した見方」「③使ってみた考え方」「④課題に対する自らの答え」の順でまとめることで、「語り手」に着目することでどのように自らの読みが深まったのかについて、生徒自身がメタ的に認知できるようにする。

3 単元の見方

- ・心情を表す語句の量を増やすとともに、文章の中で使うことを通して、語幹を磨き語彙を増やすことができる。〔知識及び技能〕(1)ウ
- ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ
- ・言葉が持つ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・心情を表す語句の量を増やすとともに、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ	・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考えている。C(1)エ	・登場人物の言動の意味や語り手という存在の意味について積極的に考え、学習課題に沿って考えたことを語り合おうとしている。

5 単元の学習指導計画（全9時間）

時	習得・活用	目標	学習内容・学習活動
1	習得	・事象や行為、心情を表す語句の量を増やすことができる。	・「少年の日の思い出」を通読する。 ・感想と疑問を共有する。 ・難解語句の確認をする。
2 ・ 3		・描写を基に「僕」と「エーミール」の人物像を捉えることができる。	・「僕」と「エーミール」の蝶収集に着目し、二項対立チャートにまとめる。 ・「クジャクヤママユ」を盗み出した「僕」の心情を心情曲線にまとめる。
4		・視点を意識しながら根拠を選び、俯瞰的に人物の言動と心情を捉えることができる。	・「クジャクヤママユ」の盗難から謝罪を受けるまでをエーミール視点でリライトする。
5		・語り手の存在を意識しながら根拠を選び、構成の効果について考えることができる。	・最後の1文の行動に込められた「僕」の思いを考える。 ・「僕」が大人になり、「客」の立場で「私」に語った理由を語り手シートにまとめる。
6		・描写を根拠としながら償いに込められた「ごん」の兵十に対する思いを捉えることができる。	・「ごんぎつね」を通読する。 ・見方カードを用いながら、この結末がごんにとって納得かどうかを考える。
7	活用	・視点と語り手を根拠としながら最終場面と冒頭場面をつなげて考え、兵十が村人に語った理由を捉えることができる。	・物語終了後、兵十がしたことを考える。 ・最終場面と冒頭場面をつなげて物語の続きを考える。 ・語り手シートに整理する。
8 本時		・語り手の存在を意識しながら根拠を選び、南吉案と三重吉案の表現の違いによるそれぞれの効果を捉えることができる。	・南吉による草稿と三重吉による定稿を語り手シートにまとめて比べながら、どちらの語りが兵十の思いを反映させているのか考える。
9		・どのような「見方・考え方」を働かせて課題解決に向かったかを自分の言葉でまとめることができる。	・ストーリーマップを用いて単元の振り返りを行う。

6 本時の学習指導

(1) 目標

- ・語り手の存在を意識しながら草稿(原案)と定稿(修正案)を比較することで、表現の違いによる効果について自分の意見を書くことができる。

(2) 学習指導過程

学習内容・学習活動	予想さえる生徒の反応	教師の支援
1 兵十がこの話を語った理由を確認する。(復習)	<ul style="list-style-type: none"> ・兵十は罪悪感を一人で抱えきれなかったため語った。 ・兵十は「ごん」というキツネの優しさを広めるために語った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語がもともと兵十によって語られたことを確認し、課題に対する意識の流れを作る。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【学習課題】 兵十の思いをより表しているのは、原案か、修正案か</p> </div>		
2 原案と修正案の相違点を見つけ、本文に線を引く。(個人→全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・(原)権狐⇔(修)ごん ・(原)うってしまいました⇔うちました ・(原)ぐったりなまま、うれしくなりました⇔(修)ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました 	<ul style="list-style-type: none"> ・原案を見せながら修正案を教師が音読することで、違いを捉えやすくする。 ・語り手シートを用いることで、表現の違いが「兵十の思い」を反映させていることを整理させる。
3 どちらがよいか、1とつなげて考える。(個人→班→全体)	<p>【原案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「うってしまいました」の方が兵十の罪悪感が伝わってきてよい ・「うれしくなりました」の方が祈りに近くて切なさを感じる <p>【修正案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごんのうなずきの意味について、兵十自身が決めつけられないほうが自然だと思う。 ・「ごん」というやわらかい呼称の方がこのキツネに対して優しいイメージになってふさわしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どこかの相違点に着目して追発問を行うことで、全体で焦点化していく意識の流れを作る。
4 ふりかえる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「語り手」の存在を根拠にすることで、表現の違いがどのような意味の違いにつながるかについて深く考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語り手シートの「内容」の違いをもとに記述させることで、根拠を持てるようにする。

(3) 評価

語り手の存在を意識しながら草稿と定稿を比較することで、結末の是非について自分の意見を書くことができたか。(観察、ワークシート)